

宮本地車噺



第17回「忠臣蔵～元禄赤穂事件～ その一」

さて、今回から大屋根枳合三方のお話をしたいと思います。

題材は皆様ご存知の「忠臣蔵」です。正式には「元禄赤穂事件」と言い「忠臣蔵」とはこの事件を題材とした浄瑠璃や歌舞伎などの作品群のことを指します。「忠臣蔵」という名前の由来として「蔵一杯の忠臣という意味」や「大石内蔵助の蔵にかけている」などと言われます。

宮本地車大屋根枳合には代表的な場面が五つ刻まれています。

大屋根彫物の場所	題名	日時
右枳合	にんじょうまつのろうか 刃傷松ノ廊下	元禄十四年三月十四日
右二重枳合	あさのたくみのかみせつぶく 浅野内匠頭切腹	〃
左枳合	ぎしうちいり 義士討入	元禄十五年十二月十四日
左二重枳合	きらこうぜけのすけうちとり 吉良上野介討取	〃
正面枳合	りょうごくばしひきあげ 両国橋引揚	元禄十五年十二月十五日

元禄年間は西暦 1688 年から 1704 年の間です。この時の将軍は「生類憐れみの令」で知られる徳川綱吉でした。彫物には生類憐れみの令により犬が増えたという時代であったということで正面・左面に犬が彫られています。

元禄十四年一月二十八日東山天皇への将軍綱吉の「年賀の挨拶」に吉良上野介が京へと遣わされました。その返礼として天皇の勅使（天皇が出す使者）と院使（上皇の使者、上皇とは皇位を後継者に譲った天皇の尊号）が江戸へ下向することとなりました。院使の饗応（おもてなし）役として浅野内匠頭が、饗応の指南役として吉良上野介が命じられました。



上野介からの度重なる屈辱に堪えきれず江戸城松の廊下で上野介に切りかかる内匠頭。内匠頭を後ろから羽交い絞めにしているのは梶川与惣兵衛。上野介が内匠頭に嫌がらせをしたのは儀礼を教えてもらうために賄賂を贈らなかったからだと言われています。

松の廊下にて取り押さえられた内匠頭は即日切腹の命を下されてしまいます。この異例とも言える決定は将軍綱吉の天皇に対する忠誠心のアピールではなかったかと言われています。

田村邸庭先にて切腹をする内匠頭。通常、座敷で行われるものだがここでも虐げられたようです。介錯は磯田武太夫。
赤穂藩主 浅野内匠頭長矩は三十五歳でこの世を去ることになってしまいました。

さて、この騒動により赤穂の城は没収、家臣たちは失職となってしまいました。一方の上野介はお咎め無しでした。

家老の大石内蔵助は何とか浅野家再興の恩赦を働きかけますがなかなかうまくは行きませんでした。翌年の元禄十五年七月、御家再興が絶望的となり、内蔵助は上野介を討つことに決め、同士を募りました。

次回は吉良邸討入りとその後の義士たちのお話になります。

